読書・学校図書館分科会

Ⅰ　研究のあゆみ

４月18日（木）	2024年度名教組教研オリエンテーション （2024年度名教組教育研究活動の進め方）	【 教 育 館 】
５月２日（木）	発表テーマ報告・集約	
５月10日（金）	研究計画の検討	【 教 育 館 】
６月４日（火）	研究内容の検討（第１次実践の計画）	【 教 育 館 】
６月18日（火）	研究内容の検討 （第１次実践のまとめと第２次実践の計画）	【 教 育 館 】
７月～８月	全体での会は開かなかったものの、個別に指導 研究内容の検討（研究のまとめと発表について）	
９月21日（土）	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

Ⅱ　研究協議の概略

読書に親しむことのできる子どもの育成をめざして３つの実践が報告された。

○　表紙を手掛かりに本を探したり、お気に入りの本を紹介したりする実践

子どもの発達段階に合わせたわくわくするような活動を取り入れることで、読んだことのない本にも興味をもち、幅広く読書する子どもの姿が見られた。

○　様々な分類の本に触れるためにゲームを取り入れたり、クイズを通して本を紹介したりする実践

ゲーム的な要素を取り入れることで、分類や配架に興味をもったり、様々な分類の本を読もうとしたりする子どもの姿が見られた。

○　グループでのブックトーク形式やビブリオバトル形式で本を紹介する実践

様々な分野の本を意識的に選択したり、システム化した自発的な活動を取り入れたりすることで、他の子どもと交流しながら読書に親しむ子どもの姿が見られた。

どの実践も、子どもが様々な分野の本に触れることができるよう、読んだ本を記録したり、教員が意図的に機会を設定したりしたことで、常に子どもが本と接する環境や振り返る機会があり、読書への興味と幅の広がりが見られるという結果につながった。

また、子どもが本を通して交流し、幅広く読書しようという意識をもつ読書活動は、今後の読書習慣を身に付ける上でも意義がある。

Ⅲ　今後に残された課題

読書活動は、あらゆる学習活動の基礎となり、子どもの主体的に学習に取り組む態度を育成し、確かな学びを支えていくために必要不可欠なものである。読書の習慣化や他教科との連携を図るためには、読書環境を整備し、子どもが様々な分野の本と触れ合う機会を充実させていかなくてはならない。まずは子ども自身がゆとりをもち、多様な本に触れることが大切である。そして、公共図書館や学校司書とも連携し、一層充実した学校図書館の活用の仕方を考えていくことが課題である。